

修士論文（要旨）

2021年1月

中国語介詞の「在 zài」をめぐる日本語との対応表現

—格助詞「に」と「で」との対照から—

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

219J3010

薛 青松

Master' s Thesis(Abstract)

January 2021

A Comparative Study of the Chinese Preposition ‘zài (在)’ and  
its Japanese Counterparts.

Xue Qinsong

219J3010

Master' s Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor:Fumihiko Aoyama

# 目次

第1章	はじめに	1
第2章	先行研究と問題点	1
2.1	「に」と「で」に関する先行研究	2
2.2	中国語の“在+場所”に関する先行研究	2
2.3	“在”と格助詞「に」と「で」の対応に関する先行研究	2
2.4	先行研究の問題点と本研究の位置付け	3
第3章	研究概要	3
3.1	研究方法	3
3.2	研究対象	3
第4章	“在”と格助詞「に」と「で」の分析	3
4.1	中国語「在 zài」	3
4.2	場所表現における「に」と「で」	4
4.2.1	場所に関する考え	4
4.2.2	「に」と「で」の機能と選択	6
4.3	自他動詞に関する考え	10
第5章	介詞構造“在+場所”の文法的機能に関する分析	12
5.1	“在+場所”の位置変化について	12
5.2	疑問や否定による文法的制限	13
5.3	“在+場所”の具体的な機能	15
5.3.1	対比・限定機能型	15
5.3.2	文章接続型	17
5.3.3	場面照応型	18
第6章	構造に関する分析と仮説	20
6.1	焦点要素の位置付け	20
6.2	構造から出た一仮説	21

第7章 まとめと今後の課題	23
参考文献	23
用例出典	25
注釈	25

## 要旨

介詞(かいし)とは、名詞(句)や代名詞をその目的語として伴うことで介詞句を構成し、時間、場所、方式、目的、原因、対象、比較などの意味を表す文法的機能語である。現代中国語の介詞“在”は、日本語の「場所」を表す格助詞「に」と「で」に対応することが多い。構造から見ると、場所を表す「に」と「で」を取る述語句を中国語に翻訳する場合、中国語の文は〈動詞+在+場所〉と〈在+場所+動詞〉の二つの形式に対応する。

迫田(2011)では、中国人日本語学習者にとって、場所を表す格助詞「に」と「で」は誤用が生じやすく、習得が特に難しいと指摘している。初級の日本語学習者は格助詞「に」と「で」の識別ができず、機能の認知が曖昧であると言われている。

一方、中国語の介詞は、独自の体系を持つ格助詞とは違い、動詞から転化したものが多い(在、去、到、跟、用、比、給など)と荒川(2020)で指摘されている。つまり中国語の介詞は、動詞性が高いと言えらる。例えば、「去到」「給到」は、二つの介詞が組み合わせられた複合介詞ではなく、〈動詞+介詞〉の組み合わせとして解釈するほうがよいだろう。こうした特徴によって、学習者の日本語の場所を表す格助詞「に」と「で」の習得はさらに難しくなっている。

本研究は“在”の格助詞「に」と「で」との対照を構造から解析し、両言語の対応の仕方を探ることが目的である。中国人日本語学習者に格助詞「に」と「で」をより詳しく認識させ、区別がつけられるようにすることを目的とする。

今回は、例文の収集にあたって、以下の作品①②を使用する。

①村上春樹 短編集『TV ピーブル』(この短編集では、六つの物語が納められている)1990.1 文藝春秋(中国語訳 林少華《電視人》2002 上海訳文出版)

- (A) TVピーブル
- (B) 飛行機
- (C) 我らの時代のフォークロア
- (D) 加納クレタ
- (E) ゾンビ
- (F) 眠り

②村上春樹 長編小説 『ノルウェイの森』1987.9 講談社(中国語訳 林少華《挪威的

森林》2007 上海訳文出版)

本研究は、中国語介詞“在”と日本語格助詞「に」と「で」を場所表現において対照しつつ、機能、構造をめぐって、集めた例を用いて分析を行った。また、場所の定義についても説明した。中国語文〈在+場所+動詞〉と〈動詞+在+場所〉の焦点を当てることは、構造の他に、動詞、イントネーション、文脈などの要素に影響される。さらに、場所表現における介詞“在”と“在+場所”の機能に関する研究をまとめ、日本語と対応させながら分析した。一つの構造は必ず一つの場面しか表せないことがなく、いくつかの例外を挙げながら、“在”の機能を再認識し、“在”と格助詞「に」と「で」が場所表現における対応をより具体化させ、仮説を立てる上、日本語の他動詞が現れる〈・で・を〉構造に中国語〈在+場所+動詞〉の構造が対応することがわかった。

とはいえ、中国語介詞“在”も、日本語格助詞「に」と「で」も、場所表現の他に多くの構造に現れている。「在天上飞/空を飛ぶ」のように、“在”が格助詞「を」と対応する場合もある。また、“在”の省略に関してどのような基準があるかもまだ不明確である。さらに、中国語の動詞文ではよく現れる介詞“把 bǎ”と“被 bei”を含めて、“在”の機能とそれに対応してくる日本語についてより詳細な研究が必要であり、これまでまとめた「に」と「で」が場所表現における機能と選択の説明を教育実践に入れて効果を検証することを今後の課題としたい。

## 参考文献

- 芦野文武 (2019) 「現代日本語における格助詞「で」の多義性の理解に向けて」『言語・文化・コミュニケーション』51, 慶應義塾大学, pp. 104-124
- 新井栄蔵 (1972) 「「場所」を示す場合の格助詞「に」と「で」をめぐって」『日本語・日本文化』3, pp. 43-57
- 荒川清秀 (2020) 「動詞のあとにくる“到/在/给”は介詞か」『言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要』42, pp. 103-111
- 新井文人 (2016) 「日本語の「Vに行く」の統語構造と意味構造に関する一考察」『大学 研究紀要言語科学研究所篇』19, 神戸松蔭女子学院, pp. 1-16
- 石綿敏雄 (1972) 「格助詞「に」を含む動詞句の構造」『電子計算機による国語研究』4, 国立国語研究所, pp. 57-109
- 岡田美穂, 林田実 (2016) 「中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と動作場所を表す「で」の習得」, 『日本語教育』163, pp. 48-63
- 岡田幸彦 (2009) 「現代日本語の移動動詞と場所名詞の格」『日本アジア研究』6, 埼玉

- 大 学, pp. 39-61
- 甘能清 (2017) 「語用論的ゲーム理論に基づく移動動詞「来(Lai)/去(Qu)」の感情移入的分析:日本語の「来る/行く」との対照比較をかねて」『京都大学言語学研究』36, 京都大学, pp. 51-70
- 久保田美子(1994)「第2言語としての日本語の縦断的習得研究—格助詞「を」「に」「で」「へ」の習得過程について—」『日本語教育』82, pp. 72-85
- 呉淑圓 (2002) 「「に」と「で」の情報伝達機能 (1) - 中国語“在”と対照して-」『言葉と文化』3, pp. 79-90
- 呉淑圓 (2007) 「場所表現の二形式—その意味と語結合の日中比較」『ことばの科学』20, pp. 33-47
- 迫田久美子 (2001) 「学習者の誤用を産み出す言語処理のストラテジー (1) —場所を表す「に」と「で」の場合」『広島大学日本語教育学講座紀要』11, pp. 15-22
- 佐野まさき (2013) 「場所格の「に」「で」と述語「ある」との選択関係」『立命館文學』633, 立命館大学, pp. 377-391
- 初相娟, 玉岡賀津雄, 早川杏子 (2013) 「中国人日本語学習者の場所を表す格助詞「で」と「に」の習得に影響する諸要因」『日中言語研究と日本語教育』6, pp. 59-70
- 菅井三実 (1997) 「現代日本語の「ニ格」に関する補考」『兵庫教育大学研究紀要 第2分冊』21, pp. 14-23
- 菅井三実 (2001) 「格助詞「で」の意味特性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』127, pp. 24-40
- 中山隆吉 (1973) 「日本語における位置格の「に」と「で」」『英米文学』34, 大塚英文学会, pp. 99-105
- 中原裕貴 (2006) 「介詞《“在”+場所詞》構造の文中位置と文法的機能について」『Lingua』17, 上智大学, pp. 124-141
- 樫山健介 (2009) 「主語の前に位置する介詞構造「在+場所」の機能と意味—中国語の《「在+場所」+主語+述語》に存在する2種類の構造」『文化論集』34, 早稲田, pp. 301-326
- 樫山健介 (2009) 「主語の前に位置する介詞構造「在+場所」の持つ一機能—「文章の展開」機能について」『文化論集』35, 早稲田, pp. 24-49
- 豊後宏記 (2002) 「主語の前に位置する介詞句“在+場所”」『短期大学部 紀要』37, 広島文教女子大学, pp. 21-29
- 水野義道 (1987) 「場所を示す中国語の介詞<在>と日本語の格助詞「に」「で」」『日本語教育』62, pp. 104-117.
- 山本雅子 (2010) 「存在表現「ある」「いる」の意味—事態解釈の観点から—」『言葉と文化』22, 愛知大学, pp. 55-71

廖郁雯（2011） 「日本語の場所を表す「デ」と中国語の場所を表す“在(zai)”について」

『千葉大学日本文化論叢』12, pp. 94-77

赵元任（1968） 『汉语口语语法』 商务印书馆

朱德熙（1982） 『语法讲义』 商务印书馆

用例出典

TV - 188~1988 村上春樹 短編集『TV ピープル』1990 文藝春秋, (中国語訳 林少華  
《電視人》2002 上海訳文出版)

ノル - 2~325 村上春樹 長編小説 『ノルウェイの森』, 1987 講談社, (中国語訳 林少  
華 《挪威的森林》2007 上海訳文出版)